

平成 26 年度 高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウム報告

矢北 孝一

環境建設技術系

1 概要

国立大学・国立高等専門学校・大学共同利用機関等の技術職員の情報交換と活性化を目的に、高エネルギー加速器研究機構（以下、KEK とする）で技術職員シンポジウムが開催された。第 15 回となる今年度は、各大学、機関が法人化後 10 年の節目となるため、テーマを「法人化 10 年と今後」と題し、下記のプログラムに示すように 2 日間で 11 機関より、法人化による組織、業務内容、人事評価、処遇等の課題、そして次の 10 年に向けての対応策等についての発表があり、活発で建設的な議論が展開された。

2 開催期間・会場

期間：平成 27 年 1 月 14 日（水）～15 日（木）

会場：高エネルギー加速器研究機構小林ホール
（茨城県つくば市大穂 1-1）

表-1 プログラム

1月14日(水曜日) 1日目			
11:30~13:00	受付		
13:00~13:05	挨拶	高エネルギー加速器研究機構 野村 昌治 理事	
KEK 技術賞講演 (KEK)	13:05	KEK 技術賞について	大越隆夫
	13:15~13:40	DAQ-Middleware の高産化と素粒子原子核・物質生命科学分野への普及活動	千代浩司 素粒子原子核研究所
	13:40~14:05	高真空真空室外散 X 線ビームラインの建設・調整法と光学素子の in situ 炭素汚染除去法の開発	高島幸雄 物質構造科学研究所
	14:05~14:30	大強度電子ビームの高ダイナミックレンジのハロー診断のための OTR / Fluorescence スクリーンを用いた 2 次元ビームプロファイルモニター	橋本勝徳 加速器研究施設
14:30~14:50	休憩		
状況報告 産長: 田中賢一 (KEK)	14:50~15:20	なぜ、技術職員を教育に強く関与する職に移したのか	電気通信大学 教育研究技師部 金子 克巳
	15:20~15:50	国立天文台技術系職員の人事制度改革と推進体制	国立天文台 技術推進室 千歳 隆三
	15:50~16:00	休憩	
状況報告 産長: 田中賢一 (KEK)	16:00~16:30	総合技術支援センターの組織と活動状況概要について	埼玉大学 研究機構総合技術支援センター 齊藤 作徳
	16:30~17:00	法人化 10 年と今後 (組織について、業務内容の変化、評価と処遇)	高エネルギー加速器研究機構 山野井 豊
	17:00~17:40	意見交換会 進行: 牧村 俊助 (KEK)	
17:40~18:00	宿舎移動等 20 分		
18:00~20:00	懇親会 会場: KEK レストラン		
1月15日(木曜日) 2日目			
状況報告 産長: 平 雅文 (KEK)	9:00~9:30	沖縄高専における技術組織 10 年の変遷	沖縄工業高等専門学校 織屋 美介
	9:30~10:00	秋田大学のこれまでの取り組みについて	秋田大学 国際資源学部技術部 川原 啓彦
10:00~10:10 休憩			
状況報告 産長: 平 雅文 (KEK)	10:10~10:40	核融合科学研究所技術部における法人化 10 年と今後	核融合科学研究所 技術部 馬場 智彦
	10:40~11:10	技術職員及び教務職員の組織的運用	長崎大学 文教地区技術部 中島 弘道
	11:10~11:40	東京大学総合技術本部設立への経過と現状	東京大学 総合技術本部 高岡 健行
	11:40~13:00	昼休み	
状況報告 産長: 平 雅文 (KEK)	13:00~13:30	東北大学技術職員組織について	東北大学総合技術部工学研究科 佐藤 秀孝
	13:30~14:00	技術部 十年の歩み	大阪大学 理学研究科技術部 古木 良一
14:00~14:10 休憩			
状況報告 進行: 山岡 広 (KEK)	意見交換会		
	閉会挨拶		田中賢一 (実行委員長)

3 内容

写真-1, 表-1 のプログラムに示すように、1 月 14 日は、高エネルギー加速器研究機構の野村理事より開催挨拶後、KEK 技術賞 3 件の発表があった。この技術賞は、技術の独創・具体・貢献・伝承性について、KEK 専門委員会で審査されたものである。その後、電気通信大、国立天文台、埼玉大、KEK から 4 件の発表があり、最後に、これらの発表に基づいて意見交換会が実施された。

1 月 15 日は、沖縄高専、秋田大、核融合研、長崎大、東京大、東北大、大阪大の 7 機関より発表があり、最後にシンポジウムを総括する意味で意見交換会が実施された。この中で、職域としてのスタッフ制とライン制の長・短所、業務評価の困難性、マネージメントの兼任と専任、年齢構成の偏り等に焦点が絞られた。KEK、国立天文台、旧帝大等の組織規模は、熊本大学を始めとする地方大学と比較し遥かに大きく、構成人数を比較しても約 10 倍の相違がある。しかし、各機関で共通する問題点があり、その解決が今後 10 年の課題の一つと考えられる。

写真-1 シンポジウム風景



4 まとめ

下記に、シンポジウムで各機関等が示した問題点の概要を示す。各大学・研究機関では、その組織形態、規模等に相違はあるが、各機関が抱える技術職員に関する各問題点には共通点も多く、今後10年の益々の発展、技術の向上等には、連携、情報の共有化を図ることが有効な手段であると考えられる。

①年齢構成のアンバランス

- ・即戦力を得るための公募により技術伝承すべき30～40歳代が不足している
- ・伝承し易い技術者に負担増
- ・中途採用者の処遇問題（ライン制の場合）

②技術業務の評価と見える化

- ・異なる業務の評価が難しい
- ・成果の公表、可視化等を認識していない

③業務マネジメント

- ・技術者は、基本的にマネジメントを望んでいない（天文台は、専任制を取っている）

④全学的な組織運用

- ・組織規模が大きく全学的な組織での運営面の難しさがある。最終的には、部局単位（東大、東北大）
- ・地方大学での全学組織への移行は、事務主導の場合がある。